

四谷ひろば開館時には… 災害時の対応

『四谷ひろば三団体自衛消防隊』と地域との連携

四谷ひろばでは、地域ひろば・東京おもちゃ美術館・CCAAアートプラザ三団体で、自衛消防隊を結成しています。毎年、6月第四金曜日、12月第一月曜日に避難訓練を実施しています。

この訓練では、おもちゃ美術館の職員が中心となり、災害発生時に、館内のご利用者の避難誘導・消火活動・けが人対応などを中心として行っています。団体ごとに、甲種防火管理者・防災管理者の資格を得ての消防計画も提出しています。コロナ禍での防災訓練に関しての見直しや、それぞれの役割分担の見直しを地域と連携して検討しています。



地震発生!!

地震の時は、まずは、自分の身の安全確保を!

落ち着き次第、職員が、館内の見回りや状況把握

館内放送での指示が入ります

指示に従い、速やかにグラウンドへ移動



常日頃より、避難経路の確認と、荷物を持ち出せるような心がけを!

停電時、各室・廊下には、非常電源が働き、電気はしばらくの間、点灯致します。

夜間の場合、階段近く非常懐中電灯が光りますので、はずして持ちだして下さい。

この施設は、四谷三丁目・四谷四丁目・荒木町・舟町・愛住町・片町 の6町会を対象とした避難所施設です。待機をしている間に、近隣の方々が避難してきます。震度五弱で、四谷ひろば避難所運営管理協議会による避難者の受付が始まります。

※ご利用の皆様は、帰宅困難者施設に誘導させていただくことになります。

みどり 四谷ひろば避難所運営管理協議会
あ お NPO協力

災害発生

開館日(木曜日・年末年始除く)

四谷ひろば三団体自衛消防隊
・年に二度(6月・12月避難訓練)
・基本、利用者並びに職員対象に
消火活動や避難誘導・応急救護

・グラウンドで待機

順次、利用者を帰宅困難者施設
へ案内、職員の帰宅体制
・必要に応じて、利用者・職員の団
体ごとに室内誘導も可能性として
ある。

・地域の方が、避難してきた場合
避難所運営管理協議会が立ち上
がるまで、受入れを行う。
食事は出さない。

<課題>

トイレ・コロナ・けが人
雨天時(室内チェック要)

休館日(木曜日・年末年始)

開館日(夜9時以降～朝8時30分)

カギ管理:愛住町 町会長
四谷四丁目 田谷

誰でも開けられる工夫が必要!自分たちで立ち上げる!

・門の鍵開け(正門・グラウンド門) ⇒ グラウンドへ集まる。室内には入らない。

<電気>

・各所設置のソーラー付き電灯 ⇒ センサー式を常時点灯に切り替える
・ランタン
・ヘルメット付きのライト
・備蓄倉庫内の電灯
・B館 10か所の常時充電式懐中電灯

<課題>

・トイレ・コロナ・けが人 ・雨天時(室内チェック要)

四谷ひろば避難所運営管理協議会
が活動する。

室内チェックについて

<雨天時・夜間>

・講堂の安全確認
横側面のトビラをあけて、飛
び出せるようにする。
※二次災害対策。建物崩壊
・又は、テントの組み立て

※各室へ誘導するのは、
受付をした人を対象とする。
そのため、地域の方が対応
但し、避難者の人数による。

コロナ感染拡大防止対策

<区分>

・プール倉庫に、椅子を準備
以下の分類ごとに、椅子を
置いて、区分けする。

グラウンド内で
・健康な人
・体調の悪い人
・明らかにコロナの人

を分類する。
他、高齢者用の椅子も検討

グラウンド 仮設トイレ

<一時避難時用に開設>

・プール内に設置
災害用トイレ 備蓄品
① トイレ 2種
② 流す用の水(古いペットボトル)
③ 便座拭き用の除菌シート
④ 汚物用の替え袋
⑤ トイレ用ペーパー
⑥ ゴミ箱とゴミ袋
⑦ 災害トイレ 外用の貼り紙
⑧ ホウキとチリトリ
⑨ ソーラー電気/ランタン

災害発生 ⇒ 大規模火災等 広域避難場所

新宿御苑・神宮外苑・迎賓館一帯等 ※宿泊は出来ません。

※基本、危険がなければ、自宅・会社待機です。

四谷ひろば グラウンドには、(旧四谷第四小学校 新宿区四谷四丁目20番地)

・四谷ひろば利用者(地域ひろば・NPO)

・近隣の企業にお勤めの方

・地域住民(愛住町・荒木町・片町・舟町・四谷三丁目・四谷四丁目)

大勢の方が、まずは、集まりますが、余震が落ち着いてくるとともに、帰宅が始まります。但し、遠方から来ている方は、電車が止まったりして、帰るに帰れない方も出てきます。

基本、6町会の方々は、自宅が安全であれば、自宅に、自宅に住めない方は、四谷ひろばの避難所運営協議会を共に立ち上げて共同生活が始まります。

●近隣企業の方は、会社に戻るか または、帰宅困難者施設に移動します。

●四谷ひろば(地域ひろば・東京おもちゃ美術館・CCAAアートプラザ)の利用者は、帰宅困難者施設に移動を予定です。

集団生活はとても想像もできないくらい大変です。

そのため、災害後も自宅で過ごせるように、耐震構造の確認や、物の配置、固定、備蓄など、普段から見直しをしておくことをおすすめします。

避難所には一時的に過ごせる物品しかありません。各自で、家族構成に応じて、食料・水などのほかに、「薬・オムツ・生理用品等」の備蓄をしておきましょう!! 備蓄は、賞味期限などがありますので、普段から循環型備蓄で、いつの間にか食べられなくなっていることにならないようご注意ください。

※特に、ご病気の方の薬の予備・介護や育児に必要なオムツ・ペットのゲージやエサの備蓄等も大切です。平穏なうちに最悪の事態を想定して準備をしておきましょう。

普段からの備え と 三団体自衛消防訓練(6月・12月)



ソーラー 感知式電気

常日頃より各所に配置



プール倉庫に、
災害用トイレの準備

ポータブル置き型
男性用溜め置き型